

ヤマザンショウ 阿智村(会地:大橋。伍和:洞。智里:中野), 阿南町(旦開:寺山。大下条:平久), 飯田市(飯田:羽場。伊賀良:三日市場中部, 北方野池。鼎:下山。川路:四区。竜丘:上川路。千代:大郡。山本:山本北平), 大鹿村(深ヶ沢), 上郷町(下黒田南), 下条村(桃立, 手塚原), 喬木村(伊久間, 富田), 高森町(市田:塚越, 中村), 豊丘村(神稲:林), 根羽村(桧原, 月瀬平), 松川町(大島:名子。上片桐:諏訪形), 泰阜村(平島田)。

〔備考〕 サンショ, サンショウ, サンショウノキ

〔新刊紹介〕 清水建美「検索入門 高原と高山の植物」全4巻 B6判 各巻206頁~214頁, 1987年7月 保育社 セット定価5,600円(各巻1,400円)

植物たちとつき合おうと思えば, なんとかしてもその名前を知らねばならない。しかし図鑑の絵を頼りに自力で名前を決定してゆくことは, 特に初心者にとっては容易なことではない。一番手っ取り早いのはよく知っている人と一緒に山に行くことだが, そうもゆかないのが現実である。そこで, このシリーズでは初心者でもとらえやすい特徴から種名が引き出せるように独自の検索表を用い, それにもとづいて配列されている。同じ保育社の「検索入門野草図鑑」の姉妹版である。

このシリーズは, すべての属と種の学名に説明がどこされているのも特徴である。植物を相手にする世界では学名が世界共通語である。なにはなくとも学名だけでも会話ができる。2巻の序文でも記されているが, 国際化の時代だからこそ学名が扱えることはこれから植物とつき合ってゆこうとする者には必須な条件であろう。初心者には慣れないために敬遠してしまうことも多いだろうが, この図鑑を使用しているうちにはきっと慣れ親しむことができるであろう。そうした意味でも, 学名をととても身近にさせてくれるシリーズである。ただ, できることであれば学名の読み方について簡単な説明を「この本の特色と使い方」に記しておいていただければ初学者により親切であったかもしれない。

植物の姿をとらえようとすれば, 決して名前だけで終わってはなるまい。第4巻の序にも書かれているが, 植物の名前調べは, 植物とのおつき合いのスタートであって決してゴールではないということを忘れてはならないであろう。(岩波 均)

〔植物ニュース〕 130. タケシマラン *Streptopus streptopoides* (Ledeb.) Frye et Rigg var.

と, 食用に供する若芽に注目した名のキノメは, いずれも別種サンショウの名である。しかし, サンショウとイヌザンショウを区別しない人も, 下伊那には数多くいて, 上記の名をイヌザンショウにも用いている。サイカチは本来マメ科のサイカチの名かも知れないが, 下伊那にはサイカチは自生していないし, 植栽品も稀である。葉が羽状複葉であること, 幹に刺があることなどの類似点によって使用されているのであろう。ニガキは元来ニガキ科のニガキという樹木の名である。(続く)

*japonicus* (Maxim.) Fassett

タケシマランの果実は球形で径7mmが標準とされているが変異が多く, 黒熟するものや楕円形のものもある。昨年8月2日南安曇郡奈川村赤田沢で見たのは長さ10~12mm, 径9~11mmと大きかったのでこれをオオミノタケシマランと呼ぶこととしたい。なお野麦峠にはクロミノタケシマランにも, これほどではないが大きな果実のものがあつた。(奥原弘人)

124. ケシウヤナギ *Chosenia arbutifolia* (pall.) A. Skuorts.

東筑摩郡波田町の梓川の河床から上方11mの土手の上, コンクリートでぬりかためて隙間もないところに生したケシウヤナギをみつけた。そのうち1本は特に生育がよく, 根周り18.5cm, 高さ3mであつた。逸見泰明氏の指摘により昭和62年12月28日に写した(山崎林治)

